



モダナイゼーション 2DX

VIDEO TRANSCRIPT

古いプログラミング言語で構築された「レガシーシステム」。そのまま基幹システムとして採用し続けていると、古い言語を書ける人材はいずれはいなくなり、いずれは誰にも触ることのできないシステムとなって、身動きの取れない状態に……。

取り返しのつかないことになる前に、今行動が必要です。しかし、システムの刷新や DX をしようと思っても、既存のレガシーシステムと DX ではギャップがありすぎて難しそうですね。大丈夫です。アクセンチュアなら、システムのモダナイズから DX まで一貫して行うことが可能です。

一般的に、現状のシステムから DX までを視野に入れたシステムに刷新するためには、いくつかの課題が存在します。既存のメインフレームと Cobol で構築されたシステムをモダナイズする必要があること。

モダナイズして Java 化したところで、アプリケーションやプロセスが変わるわけではないこと。これでは DX までカバーすることができません。システムをデジタルトランスフォーメーションするには、イチから基幹系を作り直す必要がありますが、膨大な年月がかかります。

変革を迫られているのは今。待ってられない企業のために私たちのソリューションをご説明します。

『Mod2DX』ソリューションは、レガシーモダナイゼーションからデジタルトランスフォーメーションを順番に対応していくのではなく、地続きにして並行対応していくコンセプトでつくられています。実はこのデジタル化されたオペレーションの世界のデモは、アクセンチュアの 3 つのソリューションによって既に実現しているのです。

まず、アクセンチュアが開発した、Cobol から Java へのリライトツール Majalis。メインフレームと Cobol で作成された既存レガシーシステムを Java にマイグレーションします。一口に Cobol から Java への移行といっても、ソースコードの変換以外にも様々な作業が発生します。

オンライン／バッチ処理などのテストを効率化・自動化する環境も重要となります。Majalis は、既存データの分析、データ変換、変化前後の処理とデータの一致を検証するところまで行えるため、正確かつ開発負荷をかけないマイグレーションを可能にします。

次はマイグレーションした既存システムの API 化です。Java 変換したシステムはブラウザで操作できるようになってもレガシーの機能や画面はそのまま引き継いでいるので、アクセンチュアの Api Conversion and Integration Mediator (AIM)により API 化することで、既存ロジックや画面に手を加えないまま新しいデジタルサービスとの連携を可能にします。

全てはクラウド上のマイクロサービス基盤で管理されます。そして、新しいデジタルサービスの構築や外部の API サービスとの連携は Accenture Connected Technology Solution (ACTS) のビジネスプラットフォーム上で実現されます。AIM と連携することで、マイグレーションされた既存システム機能も含めて DX まで統合して行うことができます。

開発から運用はマイクロサービスオーケストレーション基盤及び標準化された DevOps 環境で一元的に管理していくので、クラウド上ですべてが完結します。この全体を整合してカバーすることができる、それが Mod2DX なのです。

Mod2DX の真価は全てのデータがニアリアルタイムで一元化し分析された上で実現されます。

顧客や店舗の情報がリアルタイムに集約され、その分析結果からパーソナライズされた提案やアクションを逐次実行できます。社員の個々の営業や事務のプロセスがデータとして集約され、その分析結果からオペレーションのボトルネックや課題、レガシーシステムとデータの重要度分布を随時発見できます。

外部環境の変化に伴う新しい商品やサービスに関して、ACTS をベースにマイクロサービスを追加・改変していくことでアジャイルに対応することも出来るのです。

これらを活用し、データを循環させていく事によって、Mod2DX は営業の効率化だけでなく、企業の戦略の実現などにも対応できるシステムなのです。

企業・社会の変化が叫ばれる今、レガシーマイグレーションと DX は切り離せない課題です。モダナイゼーションと DX を同時に解決していくためにアクセントチュアと 2025 年の崖を乗り越え、一緒にこれからを創っていきませんか。

Copyright © 2021 Accenture
All rights reserved.

Accenture and its logo
are registered trademarks
of Accenture.